

# 横浜市立都田西小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
学び合い 認め合い 笑顔輝く 都田西っ子	多面的・総合的に考える力

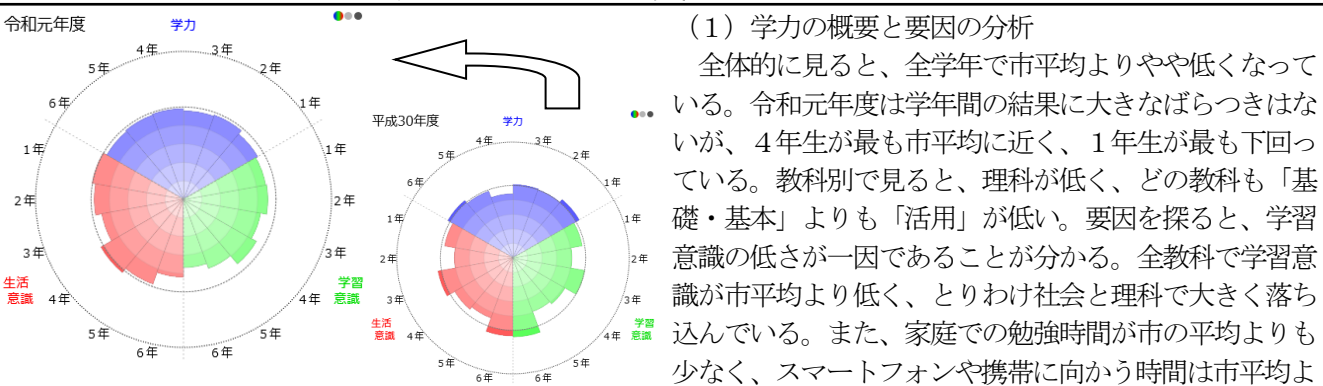
### (2) 中期取組目標

中期取組目標
子ども達が自分の中に持っている豊かな心、たくましさ、自ら学ぶ力をすこやかに伸ばします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に生活する中で、自分のよさや友だちのよさを認め合える子を育てます。</li> <li>・豊かな体験活動を通して心と体をすこやかに育み、心を言葉にのせて伝え合える子を育てます。</li> <li>・基礎基本の定着を図り、夢や願いをもって自ら学び続ける子を育てます。</li> </ul>

### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく 知	①重点研究テーマ『言葉の特徴や使い方についての理解を深め、自分の考えを表現する子の育成』と設定し、国語の学習を通して自分の考えを表現する力を育む。 ②授業を通して言葉に対する知識を増やし、理解を深められるようにする。
担当	重点研究 推進委員会

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析  
 全体的に見ると、全学年で市平均よりやや低くなっている。令和元年度は学年間の結果に大きなばらつきはないが、4年生が最も市平均に近く、1年生が最も下回っている。教科別で見ると、理科が低く、どの教科も「基礎・基本」よりも「活用」が低い。要因を探ると、学習意識の低さが一因であることが分かる。全教科で学習意識が市平均より低く、とりわけ社会と理科で大きく落ち込んでいる。また、家庭での勉強時間が市の平均よりも少なく、スマートフォンや携帯に向かう時間は市平均よりも多い。学習への関心が低いことで、理解や定着が不十分であることがうかがえる。学習活動を通して「できた」「わかった」を実現し、「生活に役立つ」という意識をもつことができるよう授業改善を図る必要がある。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科**：「言語の知識・理解・技能」は多くの学年で高い結果が出ている。一方、「話す・聞く能力」「読む能力」が低く、特に1～3年生では市平均よりも大きく下回っている。
- 算数科**：各学年で観点の良し悪しにばらつきが見られるが、「数学的な考え方」が全体的に低い。2年・5年では2観点で市平均を上回ったが、1・4年は全観点で市平均を下回っている。
- 社会科**：4年生は市平均とほぼ同等の結果、3年・5年で市平均を下回っている。「社会科意識」がどの学年も低い。特に5年生が市平均よりも大幅に低くなっている。
- 理科**：どの学年でも「技能」が市平均を上回る結果となった。対して、「知識・理解」は低く、「思考・表現」は大きく下回っている。「理科意識」も市平均を大幅に下回っている。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

過去5年間を見ると4教科のいずれかは市平均を超える結果が出ていたが、元年度は4教科全てで市平均をわずかに下回る結果となった。過去4年間続けて市平均を超えていた国語は、前述の1 (3)「学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組」として重点研究で今年度取り組んでいくことで、結果を残していきたい。「1日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間」がこの4年間続けて増加しているところも気がかりであり、実施予定の「ケータイ・スマホ安全教室」などを通して、適切な使用を指導していきたい。

### 3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◆問題を発見する力 ◆思いや考えを伝え合う能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し方、聞き方など相手に応じた適切なコミュニケーションを指導し活用できるようにする。</li> <li>言語、数の概念などの基礎基本の定着をはかるようにする。</li> </ul>	
2年	◆身近な事象に積極的に関わる態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動を積極的に取り入れ、人物の気持ちや情景を想像する活動を通して、読解力を身に付ける。</li> <li>児童が、自分の考えを文章化して、他の児童と意見交換する活動を設ける。</li> <li>授業内に、基礎的な問題に取り組み、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	
3年	◆問題解決に必要なものを選択する力 ◆他者の考えや思いに対する受容性	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決にどんな情報が必要なのかを読み取り、収集する力を身に付ける。</li> <li>自他を認め、相違点や共通点に気づき互いに学び合えるようにする。</li> <li>自分の考えを表現するための文型を知ったり、語彙を増やしたりすることでの的確に表現する力を身に付ける。</li> </ul>	
4年	◆思いや考えを表現する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に必要なことを判断、表現するための読解力を身に付ける。</li> <li>自他の考えを認め合い、協働して学ぶ姿勢を培う。</li> <li>自分の考えを表現するための表現方法や語彙に関する知識を増やす。</li> </ul>	
5年	◆多面的・総合的に考える力 ◆内省（振り返り）の習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内で様々な児童の意見を共有することで、多面的に学習課題について考える力を培う。</li> <li>授業内で振り返りの時間を設け、学習内容を整理したり次時への見通しがもてたりできるようにする。</li> <li>学習の中で地域に貢献できるような場面を考え、身近な地域への愛着心を育む。</li> </ul>	
6年	◆身近な地域への愛着	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の担任による授業交流や教科担任制を行うことで、多面的なものの見方や自分の考えを表現できるようにする。</li> <li>学習が次の活動につながるように振り返りの時間を大切にしていく。</li> <li>地域の企業との交流を通して、地域貢献の心と愛着を更に高めていく。</li> </ul>	
個別支援学級	◆身近な事象に積極的に関わる態度 ◆思いや考えを表現する力 ◆自然や文化に感動する心	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語環境の工夫や少人数での活動の場を作り、思いや考えを伝えあう体験を通して表現する力を高める。</li> <li>話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、実態に応じた適切なコミュニケーション手段を日常的に指導し活用できるようにする。</li> </ul>	

